

目次

迂齋學話抄略について	吉田 澄夫	一
『かながきろんご』について	坂詰 力治	四
——室町時代語資料としての考察——		
清原宣賢系論語抄について	小林 賢次	七
——書陵部蔵「魯論抄」の本文の性格をめぐって——		
原因・理由を表わす「ハサニ」の成立と衰退	柳田 征司	一〇三
——「史記抄」を資料として——		
幸若舞曲の国語史資料としての価値	都竹通年雄	一三六

係り結びの現象について

梅原 恭則……………一五

——ハ・モの構文的職能——

「ます」と「です」……………

安田喜代門……………一六

古今全抄とその用語……………

外山 映次……………二五

長年
寺蔵『法宝蔵海』と接続辞サカイ……………

金田 弘……………三七

アンドンとアンドウ……………

坂梨 隆三……………三〇

「ありんす・ありいす」の成立について……………

岸田 武夫……………三三

近世上方語におけるサカイとその周辺……………

小林 千草……………三九

安原
貞室「かたこと」の文字・表記について……………

白木 進……………四〇

將軍吉宗の命による諸藩の物産書提出の由来……………

島田 勇雄……………四三

露都創刊日本語典……………

吉町 義雄……………四九

稲村三伯小伝……………

杉本つとむ……………五五

——日本最初の本格的蘭和辞典の訳編者——

(付)海上随鷗『社盟録』

粹と意気との語彙的性格……………

大橋 紀子……………五九

日文をめぐる平田篤胤……………

江湖山恒明……………六九

『古今集遠鏡』動物・植物・その他への呼びかけ……………

阿部 八郎……………七二

——その根拠と宣長の口語訳観——

『東海道中膝栗毛』に使われている擬音語・擬態……………

天沼 寧……………八二

語について……………

『官語彙活語指掌』『官語彙別記』の俗語文法研究……………

史上における位置……………

永野 賢……………八九

上田万年博士と言文一致……………

山本 正秀……………九三

現代敬語の一側面……………

大石初太郎……………九六

——実地における敬語の意味——

『御湯殿上日記』にみえる接尾辞「ども」の用法……………

國田百合子……………九七

近代語学会研究発表記録……………

九一

迂斎学話抄略について

吉田澄夫

がどのように成立したか、又、これが後世なぜ衰退したのかを、考察しようとする。『史記抄』の底本には京都大学附属図書館清家文庫本を用い、^(注2) 原典や注釈書を引用した部分の訓読例は除いた。

二 「サニ」の成立

(一) 「サ」の用法中における「サニ」

京大本『史記抄』には、接尾辞「サ」が一六二例認められる。^(注3) これらの「サ」をその用法によって類別すると、次の五種類に分けられる。

1 「サニ」の形（「サテ」ハ二例Vの形のものを含む）で原因・理由を表わすもの

2 「サハ」の形で、「ことはサハれども」の意を表わすもの（次の五例が全例）

○ヨサハヨケレトモ漸々ニハセイテ一コウニ削ラウトシタホトニ乱カテキタソ（七32ウ12）

○能見^ミ——皆ヨサハヨケレトモ不足ナソ（一一33オ1）

○ヨサワヨケレトモ不審ナトテ尉史ニ其イワレヲ聞タレハ（一六13ウ5）

○人ノ小若党シテイルヲホイナウ思テ大名ノ内ノ者ニナリタサハナリタシナレハ本ノシウカ只ハラクマイホトニ面白ク次第ノニナラウトテ（二73オ9）

○惜哉残欠非才妄続残欠シタハ惜サハ惜ヨ。（或字一字墨消）非才トマテカワイケニ椿少孫ヲ云コトハアマリスキタソ（一九33オ2）

終りの二例も、なりたいたいことはなりたいたいけれども、惜しいことは惜しいけれどもの気持ちを表わしたものであろう。

3 「サヨ」の形で、詠嘆の気持ちを表わすもの（次の三例が全例）

○不思議サヨ酒屋カ一ツノコリタ事ハト作タソ（三5ウ16）

○ニラマレテ月モミエス矢モハナサレヌソ。威勢ノヲソロシサヨソ（五17ウ7）

○是ホトニ地マテ引カセラレタカ罷メラレタ事ノアリカタサヨ（七17オ2）

4 右の特定の型の表現ではなく、単純な名詞として用いられたもの^(注4)

○秦始皇力死タヲカクシテ臭サヲマキラカサウトテ鮑魚ヲ車中ニ置タト云ソ。臭キ魚チャケナソ（一八26ウ4）

○流水ニ浴ノツヨク寒テ寒サカヤウタレハ大ニ熱シテカラ病出タソト云タレハ（一一三22ウ12）

5 その他

○延表ハ表ハ広表ト云テ広ハヒロサソ。表ハタ、サソ（一一52ウ1）

○曲ハ曲トヨム字チャホトニ細小ナル義モアリ（三14オ8）

この二語に認められる「サ」も同じ接尾辞とされるものであるが、1から4の「サ」が形容詞・形容詞型助動詞・形容動詞のそれぞれ語幹についているのに対して、この語基は、そのいずれの形にもならない。そして、この時代に既に「タタサ」「ツブサ」の形で固定していたものと思われる。

以上の中、5を除いた四種の「サ」の用例数を見ると、表1のようになっている。次に、それぞれの用法の例について、「サ」がついている語を、品詞別に類別して具体的にみると次のようになっている。（数字は用例数。数字のないものは一例見えることを示す。表記は原本に従う。）

<表1>

用法	用例数
1 「サニ」	94
2 「サハ」	5
3 「サヨ」	3
4 単純名詞	58
計	160

用法1 「サニ」「サデ」を含む

原因・理由を表わす「サニ」の成立と衰退